



## ● 就任のご挨拶

名古屋市工業研究所

所長 浅尾 文博

本年4月に名古屋市工業研究所の所長を拝命いたしました。来年で80周年を迎える工業研究所は、設立以来一貫して中小企業の技術支援に取り組んで参りました。この間、貴公社賛助員を筆頭とする多くの地域製造業の皆様を支えられ、近年では年間2,000社を越える企業様にご利用頂いています。賛助員の皆様には、引き続き当所事業に対するご理解・ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

さて、リーマンショック後の長期にわたる経済低迷とは対照的に、インターネットの台頭を起点とした技術の進歩にはめざましいものがあります。製造業に関しても、3Dプリンタから始まったデジタルものづくりや、航空機へのCFRP（炭素繊維強化プラスチック）の採用など枚挙にいとまがありません。また、電気自動車に続き燃料電池自動車が市販されたことは、輸送用機械器具が高いシェアを占める名古屋圏では今後大きな転機となるかもしれません。このような産業の転換点において、従来技術の高度化だけではビジネスチャンスを逸する恐れがあると指摘されており、全ての製造業者において高い競争力となり得る独自技術の習得が急務となっています。

このような状況のもと、名古屋市では昨年度、目指す産業振興と就労支援の基本方針と施策の方向性を示す計画として「名古屋市産業振興ビジョン2020」を策定しました。また、このビジョンに合わせ、

当所では今後5年間の行動計画である「第4期中期目標・計画」を定めました。本目標・計画により、「より密接に・より強力に・より身近に」のコンセプトのもと、現場に最も近い「基礎自治体の公設試」として中小製造業者の技術競争力の向上に努めて参ります。具体的な取組例としては、製品の高性能化などにもとない複雑で多様化した技術課題にワンストップで対応できるように、経験豊富な研究員を配置した「総合相談窓口」を設置します。また、企業ニーズを把握するためにも業界組合や経済団体との連携を強めるとともに、当所をご利用頂いたことのない企業へのアプローチも行います。さらに、急速に高度化する技術に対応するために研究所自体のレベルアップが不可欠なことから、若手職員を中心とした人材育成に取り組む、高度な技術支援が提供できるように心がけて参ります。

賛助員企業の皆様には、名古屋市工業技術振興協会の時代より工業研究所の事業を有効にご活用頂いていることと存じますが、企業様が抱える技術課題が以前にも増して多様化・複雑化してきているなか、改めて皆様と当所との接点の維持・拡大の必要性を感じております。今年度には、賛助員向けの「見学・交流会」や当所幹部職員による「経営者個別面談」などの企画も予定しております。ぜひ皆様の積極的なご参加をお願い申し上げます。